3. IPTVによるサービス

3-3. NHKオンデマンド

(正会員) 所 洋 一†

キーワード ● VOD, IPTV, ストリーミング, 見逃し番組

1. ま え が き

NHKは、2008年12月1日から、NHKで放送済みの番組を通信により提供する「NHKオンデマンド」サービスを開始した。本稿では、サービス開始までの経緯、サービスの概要、システムの概要について述べる。

2. 「NHKオンデマンド」サービスの目的

「NHKオンデマンド」は、従来の放送という手段だけでなく、通信という手段により番組を提供することで、時間の制約がある放送という手段では応えることが困難であった、見逃した番組や過去に放送した番組の再放送に対する要望に応えることができ、これによる「満足度のアップ」、新たなチャンネルにより番組を提供することで番組を認知してもらうことによる「接触率の拡大」、「NHKオンデマンド」という基盤による「新たな視聴者との絆づくり」を目的としている(図1)。

また、国全体として方向性が示されている「コンテンツ大国の実現」、「VODマーケットの創出」の一翼を担うことも期待されている。

3. 「NHKオンデマンド」開始に対する諸課題

「NHKオンデマンド」を開始するにあたり、さまざまな課題が存在していた。その中から本稿では「放送法改正」と「権利処理」について述べる。

3.1 放送法改正

さまざまな目的が存在したにも関わらず、NHKが「NHKオンデマンド」を開始できなかったのは、従来の放送法ではNHKの業務範囲として認められていなかったためである。そこで、平成19年4月に放送法の改正案が提出され、平成19年12月21日に成立した。本改正案の成立により、「NHKオンデマンド」サービスを開始するためのさまざまな作業に着手することが可能となった。放送法における「NHKオンデマンド」に該当する箇所を下記に抜粋する。

図1 NHKオンデマンドの目的

◎第九条

- ・第二項第二号 協会が放送した放送番組およびその編集上必要な資料(これらを編集したものを含む。(略))を電気通信回線を通じて一般の利用に供すること(略)。
- ・第四項 協会は、前三項の業務を行うに当たっては、営利を目的としてはならない。
- ・第九項 協会は、第二項第二号の業務を行うときは、総務大臣の認可を受けて定める基準に従わなければならない。

◎第三十九条

- ・第二項 協会は、第九条第二項第二号および第三項の業務に係る経理については、総務省令で定めるところにより、その他の経理と区分し、それぞれ特別の勘定を設けて整理しなければならない。

「第九条第二項第二号」において、NHKが放送済みの番組を電気通信回線を使用して、一般の利用に供すること(BtoC業務)が可能となり、「NHKオンデマンド」サービスを開始することが可能となった。「第九条第四項」により、本サービスを非営利で運営することが求められており、「第三十九条第二項」により、本サービスの経理を受信料とは区分しなければならないとされている。

3.1.1 実施基準

「第九条第九項」により、本サービスを開始するためには、実施基準の認可を受けなければならないことになってい

† NHK オンデマンド室
"NHK on Demand" by Yoichi Tokoro (NHK on Demand Bureau, Tokyo)

る。実施基準は、「専ら受信料を財源として行うもの」と「専ら受信料を財源として行うものの以外のもの」に関して定めているが、「NHKオンデマンド」は「専ら受信料を財源として行うものの以外のもの」に該当する。「専ら受信料を財源として行うものの以外のもの」に関する主な内容は、「目的」、「サービス名称」、「サービスの種類」、「プラットフォーム事業者からの契約の申し出への対応」、「提供端末」、「利用料金の考え方」、「区分経理」となっている。

(1) プラットフォーム事業者からの契約の申し出への対応
「NHKオンデマンド」サービスの展開を希望するプラットフォーム事業者から申し出があった場合の対応について記載している。基本的には、申し出があった場合には他の事業者と平等に対応するとしているが、求めるべき条件を定めている。定めている条件には、編成条件、技術条件、ビジネス条件がある。

○編成条件

- ・編成を協会が実施できること
- ・番組の即時公開停止が可能であること

○技術条件

- ・テレビ受信機を視聴端末とする場合はハイビジョン品質でのサービスが可能であること
- ・オンラインでのメタデータ登録が行えること

○ビジネス条件

- ・サービス利用に関する契約を協会が利用者で行えること
- ・ビジネスモデルが成立すること

などを条件として定め、対応していくことを公表している。

(2) 利用料金の考え方

利用料金を設定する際の考え方についても定めている。

- ・利用料金収入の推計調査により、総額が最大となる料金を基準として、放送番組等を提供する他の事業者の平均的な料金水準に比べて不当に低くならないことを加味した中心料金の設定
- ・番組の長さ、市場性に考慮したランク、画質に応じて、中心料金を基準とした料金を設定
- ・パック商品の割引率

3.2 権利処理

「NHKオンデマンド」サービスを開始するにあたり、もう一つの大きな課題として権利処理の問題が存在した。本件については、コンテンツ大国を目指すための契約に関するルール作りを検討するために経団連主宰で設置された「映像コンテンツ大国を実現するための検討委員会」の下部組織である「ネット配信研究会」において検討が実施され、放送番組のネット配信を進めるための、報酬配分等の契約に関するルールが合意された。これにより、具体的な権利処理作業に着手することが可能となり、番組の準備の目途がついて、サービス開始が可能となった。合意された主なルールは下記の通りである。

【キャッチアップ(見逃し) サービス】

〔サービス期間〕

- ・1週間～10日などの一定期間とする

〔配信方法〕

- ・ストリーミングまたは1週間～10日などで消去されるダウンロード

〔実施主体〕

- ・放送局自らが行うものとし、他者のポータルサイトのスペースを借りて配信することも含む

〔報酬の配分方式〕

- ・レベニューシェア
- ・出演料ベース
- ・レベニューシェアと出演料ベースの組合

【キャッチアップサービス以外】

〔サービス期間〕

- ・原則として、契約期間3年以内、合計配信期間を6ヵ月以内

〔配信方法〕

- ・ストリーミングまたは一定期間での消去されるダウンロード

〔実施主体〕

- ・放送局自らが行うサービス
- ・第三者への番組販売

〔報酬の配分方式〕

- ・レベニューシェア
- ・レベニューシェア+ミニマムギャランティー
- ・提供価格ベース（主に第三者への番組販売）

4. サービスの概要

「NHKオンデマンド」サービスは、「見逃し番組サービス」と「特選ライブラリーサービス」から構成されている。「見逃し番組サービス」は、NHKのテレビ放送5波（総合テレビ、教育テレビ、衛星ハイビジョン、衛星第一、衛星第二）で放送された番組を放送日の翌日までに提供するものである。ただし、すべての放送番組が提供されるのではなく、毎日15～20本程度の番組をピックアップして提供している。合わせて、毎日5本程度のニュースに関しても、ニュース番組そのものを提供している。「特選ライブラリーサービス」は、NHKが過去に放送した番組の中から選択した番組を提供するものである。2008年12月のサービス開始時点で約1,200本の番組をラインナップし、その後、毎週20本程度の番組をラインナップに加えていき、2009年2月末時点で約1,580本を提供している。

サービス開始時点において、「見逃し番組」としては、「連続テレビ小説 だんだん」、「大河ドラマ 天地人」、「NHKスペシャル」、「クローズアップ現代」、「ためしてガッテン」などがラインナップしている。ただし、番組によ

(画面はイメージです)

っては内容などにより提供できない場合がある。ニュースに関しては、「おはよう日本」、「ひるのニュース」、「BS列島ニュース」、「ニュース7」、「ニュースウオッチ9」を提供しているが、内容によりネット配信できない部分は、映像をことわりの静止画に差し替えたり、カットしたりして提供する場合がある。「特選ライブラリー」としては、「映像の世紀」、「プロジェクトX 挑戦者たち」、「歴史への招待」、「連続テレビ小説 おしん」、「大河ドラマ 武田信玄」などを提供している。

サービスの課金方式は、大きく分けて「随時課金」と「継続課金」の2種類を用意している。「随時課金」は視聴の都度に課金が発生する形態である。基本は番組1本ごとに購入する「単品販売」であるが、番組によっては複数の番組をまとめて割引販売する「パック販売」を用意している。都度の課金ではあるが、番組ごとに例えば24時間、3日間のよう決められたライセンス期間があり、購入した時点からライセンス期間内であればいつでも視聴する権利を保有することになる。「継続課金」は毎月定額の課金が継続して発生する形態である。「NHKオンデマンド」では「見逃し番組」を見放題にする「見逃し見放題パック」を提供している。

「NHKオンデマンド」サービスは、PCとテレビで利用が可能である。テレビでのサービス提供は、テレビを視聴端末とするVODサービスを提供している既存のプラットフォームの機能を利用してサービスを展開している。現時点では、プラットフォームとして株式会社アクトビラ提供の

「アクトビラビデオ」、株式会社ジュピターテレコム提供の「J:COMオンデマンド」、株式会社NTTぷらら提供の「ひかりTV」を利用してサービスを提供している。テレビでのサービス提供は、ハイビジョン品質で行っている。各プラットフォームの配信フォーマット、必要としている回線などは次の通りである。

【PC】(図2)

配信フォーマット：Windows Media Video 768kbps, 1.5Mbps

回線：インターネット

【アクトビラビデオ】

配信フォーマット：H.264

回線：インターネット

* 「アクトビラビデオ」においては、HDのサービスである「アクトビラビデオ・フル」のみでサービスを行っている。

【J:COMオンデマンド】

配信フォーマット：MPEG-2

必要環境：ジュピターテレコム社提供のケーブルテレビ (J:COM TV デジタル)

【ひかりTV】

配信フォーマット：H.264

回線：Bフレッツ、フレッツ光プレミアム、フレッツ光ネクスト

図3 NHKオンデマンドシステム概要図

5. システムの概要

「NHKオンデマンド」サービスを実現しているシステムの構成を図3に示す。データフローとしては、「メタデータ」、「動画」のフローがある。配信のための素材を作成する部分は、NHKの局内で対応している。動画に関しては、配信先ごとにフォーマットが異なっているため、複数のフォーマットのファイルを作成する必要があるが、編集などの加工が必要になる場合があるため、編集を行っても十分に画質を維持できる共通フォーマットに「エンコードシステム」によるファイル化を行い、必要に応じて編集を実施した後に、「トランスコーダシステム」により各プラットフォーム用のフォーマットの動画に変換し、各プラットフォームにアップロードする。「メタデータ」に関しては、各プラットフ

ーム共通で管理し、PC用のプラットフォームから各テレビ系サービス用のプラットフォームに登録している。

利用者にサービスを提供する部分は、各プラットフォーム事業者、および、ASPを利用しており、NHKとしては設備を保有せず、機能提供を受けて「NHKオンデマンド」サービスを実現している。

6. む す び

「NHKオンデマンド」は、NHKの放送した番組を提供するということで、「ドキュメンタリー」、「趣味・教養」など、今までのVODサービスにはあまり登場してこなかった多様なジャンルの番組を取り揃えたサービスである。また、毎日15本以上の番組、ニュースを入れ替えていく本格的な見逃し番組サービスを提供している。特に、見逃し番組サービスの実現にあたっては、オンラインでのコンテンツ登録など、今までのVODプラットフォームにはない機能の整備、毎日のコンテンツの動画、メタデータの作成、登録といった運用など手探りの中で、4プラットフォームでのサービスを開始することができた。

「NHKオンデマンド」が国内におけるVODサービスの新たな時代を切り開き、今後のさまざまなVODサービスの礎となることを期待している。

(2009年1月30日受付)

ところ 洋一 1988年、早稲田大学院理工学研究科修了。同年、NHK入局。富山放送局、放送技術局、マルチメディア局などを経て、2007年より、NHKオンデマンド室にて、「NHKオンデマンド」サービスに従事、正会員。